



SUPPLY CHAIN CONFERENCE 2010

12 - 14 October 2010 • Berlin, Germany

サプライチェーン会議 2010

2010年10月12-14日 • ドイツ、ベルリン

基本に立ち戻って

～今日を届ける。明日を届ける。～

Back to Basics

Deliver Today, Deliver Tomorrow.



10月12日火曜日

12.30 – 18.00 店舗見学ツアー・プログラム

ドイツ小売企業のサプライチェーンに学ぶ

この店舗見学ツアーは他には例のないユニークなプログラムです。参加の方々は、訪問企業のサプライチェーン・マネージャーの案内で売り場を歩いて回ります。地元のリーディング小売企業が、サプライ・チェーンの課題にどう対応しているかを目の当たりにする絶好のチャンスです。このツアーはオプションで、別途参加費用がかかります。見学ツアーの受け入れ人数には限りがあります。先着順で受付をして参りますので、参加御希望の方はできるだけ早く事前登録をお済ませください。

ダグラス・パフュームリー

ホスト: ユルグ・シュトゥルーニング (ダグラス・パフュームリー、組織店舗プロセス担当部門部長、ドイツ)

ダグラス・グループが目指すのは「小売のエクセランス」です。比類のないサービス、適正価格でなおかつ最高級の製品、購買意欲をそそる環境、フレンドリーな従業員を提供します。ダグラス・グループは、欧州市場のリーダーであり約2,000店の専門店を展開しています。

エデカ

エデカ・グループは、ドイツ最大のスーパーマーケット会社です。1898年に創立され、今日では複数の独立系小売店協同組合で構成されています。約4,100店の店舗は小規模な街角のコンビニからハイパーマーケットまでを含み、全店エデカの名前で営業しています。

リアル

ホスト: ウーヴェ・ピーパー (リアル、サプライチェーン・マネジメント、ドイツ)

「リアルにお任せ。この1店だけで大丈夫」。リアルは消費者、イノベーション、品質に注力しており、戦略の鍵もここに 있습니다。イノベーションのリーダーとして、常に店舗にニュー・テクノロジーを展開するリアル。その一例がセルフレジです。

レーヴェ

ホスト: トーステン・プラーグ (レーヴェ、東部地域ロジスティクス部長、ドイツ)

レーヴェ・グループは、ドイツで約11,000の店舗をもち、従業員数は21万9000人になります。店舗には、スーパー、ディスカウント・ストア、セルフサービス・ストアから、専門店や旅行代理店までが含まれます。東部地域の年商は約350億ユーロになります。

10月13日水曜日

09.00 - 9.15

サプライチェーン会議 2010 への歓迎のご挨拶とセッション紹介

トニー・ヴェンドリグ（アホールド・ヨーロッパ、事業開発担当執行副社長、オランダ サプライチェーン委員会委員長）

09.15 - 09.25

The Consumer Goods Forum の最新ニュース

ジャン-マーク・ソバドゥ（The Consumer Goods Forum、マネージング・ディレクター）

基本に立ち戻って - ドイツ市場

09.25 - 09.35

ドイツへの歓迎のご挨拶

ユルグ・プレッツェル（GS1 ジェネラル・マネージャー、ドイツ）

09.40 - 10.10

ドイツ小売企業を取り巻く課題

ドイツ小売企業の今日の課題とは何か。消費者行動はどう変わったのか。メトロは変わりゆく消費者にどのように対応したのだろうか。ハード・ディスカウントによって、小売環境はどのように様変わりしたのだろうか。メトロの対応に学ぼう。

ジョン・リクス（メトロ・キャッシュ&キャリア・ドイッチュランド GmbH、CEO、ドイツ）

基本に立ち戻って - 品切れ防止（売場の販売用在庫の確保）

サプライチェーン委員会メンバーによる、セッションへの歓迎のご挨拶

ジョン・フィリップス（ペプシコ、バイス・プレジデント、顧客サプライチェーン&ロジスティクス担当、米国）

10.15 - 10.45

アルバート・アインの生鮮：統合された顧客志向の商品補充と生産

本プレゼンテーションでは、アルバート・アイン生鮮サプライチェーンのビジョンと実践が紹介されます。顧客の実際の買い上げを起点として、生鮮品の生産と配送が行われます。要求される品切れ防止率と商品の豊富感、鮮度と値引きなどが KPI（主要パフォーマンス指標）となります。

そしてそれらを基準にして、中央の補充部門はアルバート・アイン全店舗の生鮮品の流れを管理しています。

ペーター・ヴァン・クラリンゲン（アルバート・アイン、補充担当バイス・プレジデント、オランダ）

10.45 – 11.30 リフレッシュ休憩

11.30 セッション再開

11.35 – 12.05

情報が在庫に代わる -

パフュームリー・ダグラス流のサプライチェーン管理

ダグラスは、過去数年間で自社パフュームリー・ロジスティクスを一大改革し、持続可能な効率を実現した。ダグラス流サプライチェーン戦略と、最新プロジェクトである自動予測発注システム導入の詳細を理解してみましょう。ダグラスのサプライチェーン戦略の狙いは、全社にわたるITにより統合されたサプライチェーンの最適化です。そのための主なコンポーネントはIT、サプライヤーの統合、トップのロジスティクス会社へのアウト・ソーシングの3つである。

ユルグ・シュトゥルーニング（ダグラス・パフュームリー、組織店舗プロセス担当部門部長、ドイツ）

基本に立ち戻って – 持続可能な輸送

サプライチェーン委員会メンバーによる、午後のセッションへの歓迎のご挨拶

リュック・クノート（デレーズ、シニア・バイス・プレジデント及びベルギーCIO、ベルギー）

12.10 – 12.40

国内配送の最適化 (NATRO)

ミグロスは、国内配送コストを10%削減するという自社目標を設定しました。同社は自社所有トラック400台と、ほぼ同数の外部企業所有のトラックからなる配送ネットワークを利用し、鉄道輸送も頻繁に行っています。パフォーマンスとコストの透明性をベースに、ミグロスは新たな配送方針を作成し、実際的なソリューションと測定方法を開発しました。一人一人のプレーヤーと個別の目標値に合意し、たとえ主要な測定方法は実施できなかったにしても、目標は上回る事ができました。その副産物として、CO2排出量も削減されました。本プレゼンテーションでは、NATROシステムの成功に寄与した要因だけでなく、直面した問題についても明らかにします。

トーマス・パルベク（ミグロス、Mインダストリー・グループ、サプライチェーン・マネジメント・コーディネーター、スイス）

12.40 – 14.10 昼食

14.10 セッション再開

14.15 – 14.45

デレーズの持続可能な輸送

さらに責任を求められる世の中に貢献しつつ、自社の生産性の輪を輸送がどのようにサポートできるか。デレーズ・ベルギーが最近成功裏にスタートさせたイニシアチブは、このようなプログラムを構築している。その中には、トラック・トレーラーのイノベーションから、店舗配送計画及び店舗再発注のエンド・ツー・エンド・サプライチェーン最適化プロジェクトまでが含まれる。タンギー・セルスティヴンス（デレーズ、サプライチェーン担当バイス・プレジデント、ベルギー）

14.50 – 15.20

トルコにおける、流通センターから店舗への配送コスト最小化の 実践的アプローチ

配送は、小売物流コストのかなりの割合を占める。本プレゼンテーションを通じ、テスコ・トルコがいかにして流通センター配送管理の新方式を導入したかを学ぼう。コストは効率的に管理された結果削減され、同時にサービスレベル目標も達成された。テスコの経験から学べるのは、どのようなメリット、どのような教訓だろうか。

オスマン・ドグルク（テスコ・キパ、流通部長、トルコ）

15.20 – 16.05 リフレッシュ休憩

16.05 セッション再開

16.10 – 16.50

都市部での持続可能な配達とヤマトの最後の1センチの工夫

配達に自転車というユニークな輸送手段を導入することで、下町の通りに大型の配送トラックを差し向ける必要がなくなり、自社の流通網の「最後の1マイル」に地球環境により優しい方法を提供できる。貨物用に改造された自転車で、日本の大都市の隅々にまで商品を宅配してきた経験とはどのようなものであったか。メリット、デメリットはどこにあるか。何故ヤマトの「宅急便」システムがここまで成功したのか。顧客サービスが、いかにヤマトの成功の鍵となったかを学ぼう。

梅津 克彦（ヤマト運輸株式会社、グローバル営業部 アカウント エグゼクティブ、日本）

基本に立ち戻って – 災害復旧ロジスティックから学べること

16.55 – 17.25

将来のバリューチェーン 2020 への考察

今後 10 年で、持続可能性、言い換えれば「グリーンへの歩み」はどのような方向に向うのだろうか。これが我々のビジネスを実際どこまで変えていくのだろうか。新たな都市型インフラによって、巨大都市での我々の物流は大きく再構築されることになるのか。現在は十分なサービスが提供されていない、新興諸国の大消費者グループに対し、我々の業界はどのようにサービス提供ができるのか。将来のバリューチェーン 2020 プログラムを通じて、企業がこれからのバリューチェーンにおいて成功し、具体的な共同作業を発案、実施していくために、企業間協力が必要となる重要分野を特定してみた。

ゲルト・ヴォルフラム (MGI メトロ・グループ情報技術 GmbH、マネージング・ダイレクター、ドイツ)

ナイジェル・バグリー (ユニリーバ、製造事業部長、イギリス)

17.25 – 17.35 閉会のご挨拶

19.00 人的ネットワークのタベ

忘れられない人的ネットワークのタベを、仲間のサプライチェーン担当エグゼクティブと共に楽しく過ごそう。

10月14日 木曜日

基本に立ち戻って - サプライチェーンの効率化

09.00 - 09.10

サプライチェーン委員会メンバーによる、午前のセッションへの歓迎のご挨拶

ペトラ・アルブスス（ICA スウェリゲ AB、ロジスティクス担当バイス・プレジデント、スウェーデン）

09.15 - 09.45

サプライチェーン効率化とは、正確さと信頼性に投資すること

正確さと信頼性に投資すれば、サプライチェーンで繰り返し行われる識別プロセス（検収・検品）にかかる時間を大幅に短縮できる。メルカトールの配送センターでは、配送商品最終チェックプロセス変更のおかげで、信頼性が大幅に高まり、その結果、小売店側で受け取った商品の検収・検品にかかる時間が大幅に短縮された。本プレゼンテーションでは、店舗担当役員から、この新プロセスがビジネスにどのような意味を持ったかを説明する。

マルコ・セディルニク（メルカトール、ロジスティクス担当執行役員、スロヴェニア）

ロク・ガジュセック（メルカトール、ロジスティクス・プロジェクトマネージャー、スロヴェニア）

ロマナ・クラマー（メルカトール、小売部長、スロヴェニア）

09.50 - 10.20

フード・ディスカウンターのサプライチェーン効率化

ドイツのフード・ディスカウンターでは、いかにして最も無駄を省いたサプライチェーンのひとつを成功裏に運営しているのだろうか。

Dr. ミルコ・ワーシュン（AT カーニー、消費財業界&小売プラクティス DACH 部長、パートナー、ドイツ）

10.20 - 11.05 リフレッシュ休憩

11.05 セッション再開

11.05 - 11.50

Paltac（パルタック）のファイブナイン（99.999%）ロジスティックサービス・レベル

Paltac は、日常生活必需品のリーディング・ホールセラーとして、3万アイテムもの商品を、日本全国の小売企業に効率よく正確、かつ時間通りに納品している。Paltac の倉庫・輸送共有システムのどこが独特なのか。99.999%という「ファイブナイン」の精度をどうやって実現している

のか。理想の配送精度実現に、テクノロジーの果たす役割とは。完全に一貫したオペレーションをどのように行っているのか。マーチャンダイジングとロジスティクスシステムに100年以上の経験を持つ Paltac が、日本の流通産業発展にいかにかに寄与してきたかを学ぼう。

酒井 敏行（株式会社 Paltac、取締役 執行役員、情報・物流統括本部長、日本）

11.55 - 12.25

サプライ・チェーン運用上の KPI（主要パフォーマンス指標）を設定することは、社内的、対外的に卓越したコストを実現することにつながっていく。

この成果発表では、プロクター&ギャンブルがサプライ・チェーンのなかで削減するコストを明確にしコスト削減を実現するために、いかにしてコスト・ドライバーにリンクしたシンプルな KPI を策定したのかに着目する。しかも、プロクター&ギャンブルは、このシンプルながら極めて効果の高い方法を通し、エンド・ツー・エンドのインパクトを実現するため、パートナーであるサプライヤー及び顧客／ディストリビューターと共に KPI を構築している。

ナム・パテル（プロクター&ギャンブル、CEEMEA 顧客サービス・ロジスティクス部長、スイス）

12.25 - 13.30 昼食休憩

13.30 セッション再開

サプライチェーンでの実践に学ぶ

サプライチェーン委員会メンバーによる、午後のセッションへの歓迎のご挨拶

マーク・エイルウィン（ブッカー・グループ、ブッカー・デリヴァード・ホールセール、マネージング・ダイレクター、イギリス）

13.35 - 14.05

基本に立ち戻って - ザラのサプライチェーン効率化

ザラのこれほどの成功を支える、サプライチェーンの独自性とは何なのか。自社独自のサプライチェーンを持つことで、いかにして経済危機の嵐を競合他社よりうまく切り抜けられるのか。情報の恒常的な交換が、最新のファッショントレンドをスピード感を持って店舗に導入するのに、どのような役割を果たすのか。インディテクスは、あらゆるルールを破りながら、どのように成功し、発展してきたか。

ロレナ・アルバカストロ（インディテクス、サプライチェーン部長、スペイン - 発表予定）

14.10 - 14.40

ロジスティックのエクセレンスが人命を救う

DHL の救難救援プログラムは、救援物資が突発的な大規模自然災害の被災者に迅速に届くよう、ロジスティック分野をサポートしている。災害対応チームが、自らの持つ物流と輸送のプロとしての知識を活用して各国政府を援助し、救援物資のハンドリング、倉庫管理、以遠輸送への積み込みを効率的に行い、最終的には突発的な大規模自然災害発生地に近い空港でのボトルネックを軽減する。災害復旧ロジスティックから学べ、我々のビジネスに応用可能な教訓とは何だろうか。

シュザンヌ・マイアー（DHL、バイス・プレジデント、CSR 戦略方針担当、ドイツ）

本日のハイライト

14.45 – 15.30

態度（Attitude）こそが高度（Altitude）を決める

マイルズ・ヒルトン-バーバーは20代の初めに光を失ったが、それでも自らの夢の実現を諦めようとはしなかった。マイルズが織りなす豊富なエピソードとユーモア。自らの失明を克服する過程で学んだ力強い人生の教訓を交えて語るマイルズは、「態度こそが高度を決める」、我々だって自分の夢に生きられる、なぜなら「我々の人生の唯一の限界は、自分を受け入れてしまうという限界だから」と、聴衆に訴えかける。

マイルズ・ヒルトン-バーバー（冒険家、英国）

15.35 – 15.45

サプライチェーン委員会委員長による閉会のご挨拶

トニー・ヴェンドリグ（アルバート・アイン、事業開発担当バイス・プレジデント、オランダ。サプライチェーン委員会委員長）

16.00

バスでベルリン国際空港に向け出発

最新の会議プログラムは、以下のサイトをご覧ください

www.tcgfsupplychain.com